（様式 2）

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

平成 27 年度～令和元年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要

1　学校法人名　東成学園　　2　大学名　昭和音楽大学

3　研究組織名　バレエ研究所

4　プロジェクト所在地　神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-16-6

5　研究プロジェクト名　バレエ情報センター機能の構築

6　研究観点　研究拠点を形成する研究

7　研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小山　久美	バレエ研究所	所長

8　プロジェクト参加研究者数　11　名

9　該当審査区分　理工・情報　生物・医歯　人文・社会

10　研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
小山　久美	バレエ研究所・所長	研究統括、バレエアーカイヴの運営とバレエ教育について	研究統括、資料の整理・収集、アーカイヴ化・公開
石田　麻子	オペラ研究所・所長	舞台芸術アーカイヴのノウハウの集積	アーカイヴ化・公開
岩部　純子	音楽学部・専任講師	国内外におけるバレエ環境実態把握	バレエ環境実態調査
尾崎　瑠衣	バレエ研究所・研究員	世界におけるバレエアーカイヴの構築、運営	バレエ情報の整理・収集・公開
小夙　健太	バレエ研究所・研究員	海外におけるバレエ環境実態把握	バレエ環境実態調査
海野　　敏	東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科・教授	バレエ調査と統計学	バレエ環境実態調査
大原　永子	新国立劇場・舞踊芸術監督	実演団体から見たバレエアーカイヴ	資料収集、アーカイヴ化
高野　明彦	国立情報学研究所・教授	バレエのデジタルアーカイヴ	バレエデジタルアーカイヴの構築
高橋　典夫	一般社団法人日本バレエ団連盟・理事長	バレエ資料収集、アーカイヴ化・公開	アーカイヴ化・公開
松澤　慶信	日本女子体育大学ダンス学科・教授	国内外におけるダンス教育	バレエ環境実態調査

（様式 2）

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

溝上　智恵子	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科・教授	芸術資料のアーカイヴ化	アーカイヴ化・公開、貴重資料の保存・管理
（共同研究機関等）			

＜研究者の変更状況（研究代表者を含む）＞

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

（変更の時期：平成　28　年 2 月 15　日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	国立情報学研究所・教授	高野　明彦	バレエデジタルアーカイヴの構築

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
バレエを中心とする文化芸術政策	昭和音楽大学・教授	根木　昭	アーカイヴ化・公開
舞台芸術アーカイヴのノウハウの蓄積	オペラ研究所・教授	石田　麻子	アーカイヴ化・公開

（変更の時期：平成 28 年 6　月 1 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
舞台芸術アーカイヴのノウハウの蓄積	オペラ研究所・所長	石田　麻子	アーカイヴ化・公開

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
国内外における バレエ資料収集、整理	公益社団法人日本バレエ協会元会長	薄井　憲二	研究アドバイザー、 アーカイヴ化・公開

（変更の時期：平成　30　年 2 月　1 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

（様式 2）

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

11　研究の概要（※　項目全体を10枚以内で作成）

（1）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

研究の背景

バレエ学習者約 35 万人を擁し、国際的に活躍するダンサーを数多く輩出する日本は、世界でも指折りのバレエ大国と言われる。しかし同時に日本におけるバレエ研究は問題を抱えている。そのひとつは中心的アーカイヴの不在とアーカイヴ整備の遅れである。アーカイヴは芸術発展、研究振興に不可欠であるが、専門知識を持った職員の不在、採算性等の理由で運営が難しく、現在、日本において中心的なバレエアーカイヴは存在しない。加えて日本においてはバレエの発展を長らく民間が担ってきたため、バレエ団の多くは組織として規模が小さく、人員の不足などからアーカイヴまで手が回らないことがほとんどである。バレエに関する資料のほとんどは未整理の状態で各バレエ団内に蓄積されており、そうした資料は保存・管理等の面でも、問題を抱えている。

昭和音楽大学バレエ研究所（以下バレエ研究所とする）は日本で唯一の大学付属バレエ研究機関である。数多くのバレエ資料を保存しており、また設立から今日まで培ったネットワークを活用し、国内外のバレエに関わる資料や情報を収集することが可能である。加えてすでにバレエに関する調査・研究を数多く行った実績もある。また専門的アーカイヴを構築するために必要な、専門知識を持った職員が勤務している。

計画の目的

以上の背景をふまえて本研究の目的は、バレエ関連資料やバレエに関する情報をバレエ研究所で一元的に集積・整理した上で公開し、国内でも有数のバレエ情報センターを構築し、バレエ研究の拠点を形成する点にある。具体的にはバレエに関する情報や資料等をバレエ研究所に集積し、公開する。またバレエに関わる環境調査等を行い、それらの調査結果を公開する事業である。

バレエに関わる資料拠点や実証的なデータの欠如は、日本のバレエ研究において、大きな障害となっていた。バレエ研究所は「バレエ情報センター機能の構築」事業を通じて、日本におけるバレエ研究とバレエ芸術の振興を図り、またひいては日本における舞台芸術振興に寄与することを目指した。

計画の概要

本研究の目的は、バレエにおける資料や情報をバレエ研究所に集積し、専門知識を有する研究員や所員が整理したうえで、広く公開することで、日本におけるバレエ研究、またバレエ発展の一助とすることである。

図 1 のとおり収集する情報や資料は大別して、以下の 4 種類に分かれる。(1)バレエ公演プログラム、(2)バレエ関連の専門書・雑誌・楽譜など、(3)バレエに関する環境調査結果、(4)その他バレエ関連の資料（ブロマイドなど）である。(1)の公演プログラムに関しては、バレエ研究所が事業前から所蔵している山野博大氏寄贈公演プログラムコレクション約1万点等を基礎としながら、収集の足りない年代やバレエ団、重要公演のプログラムを割り出し、コレクションを拡充した。(2)のバレエ関連専門書に関しては、バレエ研究所には事業前からバレエに関する和書、洋書があった。しかし必要と思われながらも所蔵されていない書籍も多数存在した。言い換えれば網羅性という点で問題があった。よって収集が必要と思われる書籍や資料を購入し、また関係者から寄贈を受け入れるなどの活動を行った。(3)の環境調査に関しては、バレエ学習者数などの全数調査を行った。(4)のその他バレエ関連資料に関しては、ブロマイド等を、主に関係者からの寄贈によって収集した。

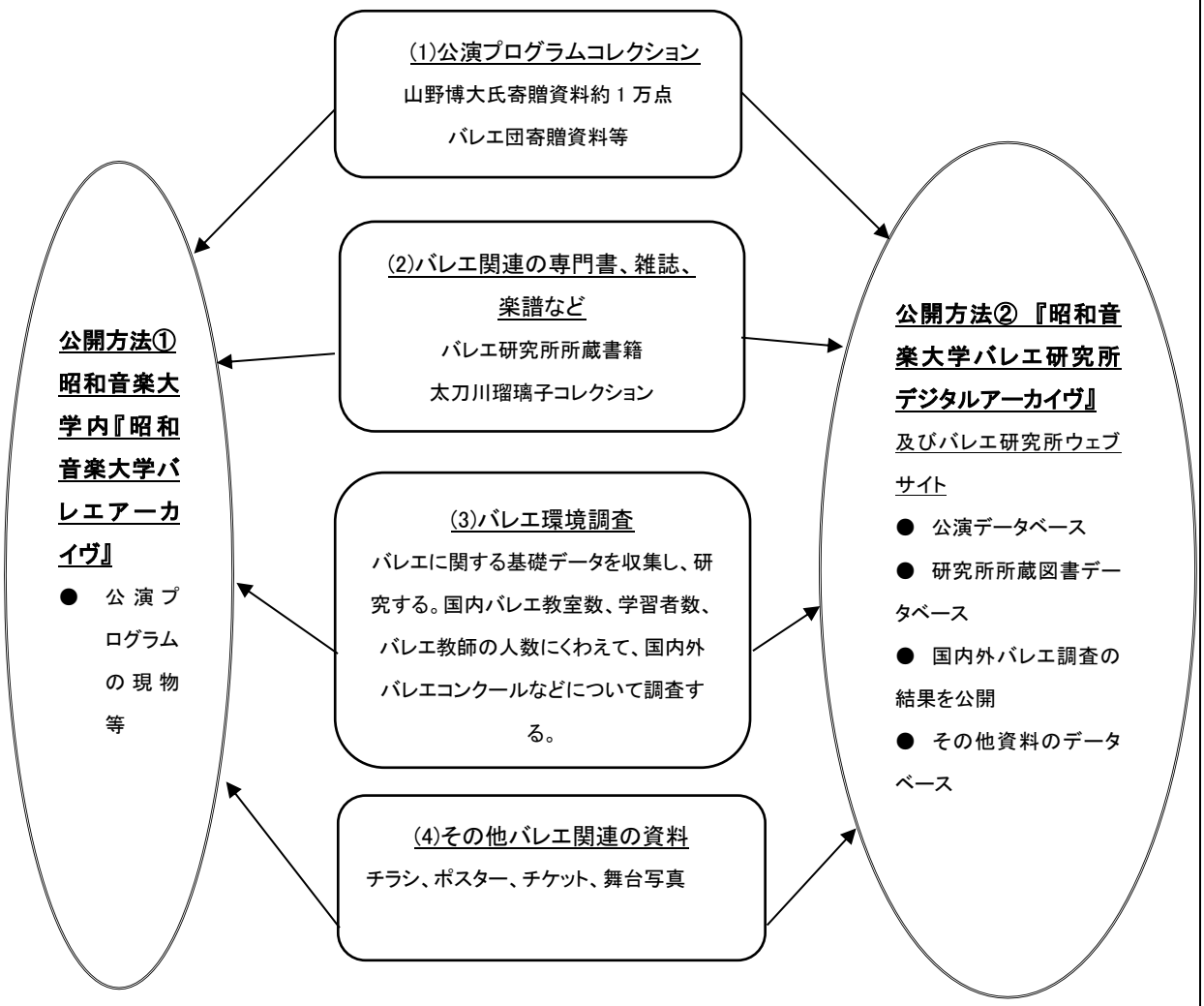
また本研究ではアーカイヴ対象をバレエに関する情報、紙資料、視聴覚資料とし、博物館

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

的資料（衣装、舞台装置等）は収集対象から除外した。

上記 4 種類の資料や情報に関して、①昭和音楽大学バレエアーカイヴと、②昭和音楽大学デジタルバレエアーカイヴ及びバレエ研究所ウェブサイトという 2 種類の方法で公開することとした。①は、利用者が実際にバレエ研究所を訪れて資料を閲覧する方法であり、②は、オンライン上で、利用者がいつでもどこからでも、バレエ情報にアクセスできる方法である。

【図1】 計画の概要



また上記の計画を実行するため、バレエ、舞台芸術、芸術運営、情報学の専門家で構成される組織を作った。以下のとおり 3 つのグループを設け、それぞれのグループに研究員を配置し、研究を行った。

バレエ情報・資料整理グループ：バレエに関する資料を収集するグループである。具体的にはバレエに関する書籍、公演プログラム、視聴覚資料等を、バレエ研究所内に計画的かつ効率よく収集することを目的としている。バレエ研究所は本事業以前からバレエ公演プログラム約 1 万点を所蔵していた。また貴重書も含めた、バレエに関する書籍や視聴覚資料も多数所蔵していた。しかしながらコレクションとして鑑みた場合、網羅性の点で、拡充が必要な年代や地域、分野など多くあった。研究所がすでに所蔵していたコレクションを元としながら、バレエ資料の一大拠点構築のために、網羅的に資料の拡充を行った。また資料の保存や管理の見直し、また資料の分類なども行った。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

デジタルアーカイブグループ：本グループはバレエ情報に関するデジタルアーカイヴ構築が目的である。バレエ研究所は本事業以前から「バレエ情報総合データベース」を公開していたが、検索が機能していない、検索に時間がかかりすぎるなど、実用面で深刻な欠陥があった。よって本研究をもってデータベースのデータモデルから見直し、新たにアーカイヴ設計を行い、世界でも有数のバレエ公演デジタルアーカイヴを構築した。またバレエ研究所が所蔵する書籍や視聴覚資料等に関しても、オンラインで蔵書検索ができる、検索システムを構築した。

バレエ環境調査グループ：国内外のバレエ環境に関して調査・研究を行い、調査結果を公開することが目的のグループである。日本におけるバレエ教育に関する全国調査、全国バレエコンクール調査、海外バレエ団におけるコンクール出場実態調査等が含まれている。

年次計画

以下のとおり年次計画を立て、5ヵ年でほぼ計画どおりに事業を進めた。

平成 27 年度：研究組織の確立、バレエ研究所所蔵資料の確認と整理、国内外のバレエ情報に関わるアーカイヴに関する調査、デジタルアーカイヴのデータ基盤構築（1 年目）、国内外バレエ環境に関する調査（1 年目）

平成 28 年度：デジタルアーカイヴのデータ基盤構築（2 年目）、国内外バレエ環境に関する調査（2 年目）、所蔵資料の拡充（1 年目）、所蔵資料のデータ入力・デジタル化（1 年目）

平成 29 年度：国内外バレエ環境に関する調査（3 年目）、所蔵資料の拡充（2 年目）、所蔵資料のデータ入力、デジタル化（2 年目）、バレエ情報を元とした企画展の開催（1 度目）、研究成果の中間報告

平成 30 年度：国内外バレエ環境に関する調査（4 年目）、所蔵資料の拡充（3 年目）、アーカイヴ公開方法の検討、所蔵資料のデータ入力、デジタル化（3 年目）

令和元年度：国内外バレエ環境に関する調査（5 年目）、所蔵資料のデータ入力、デジタル化（4 年目）、バレエ情報を元とした企画展の開催（2 度目）、アーカイヴの完成・公開、研究成果の最終報告

（2）研究組織

研究員

本プロジェクトの組織は 11 名の研究員で構成されている。昭和音楽大学教員 5 名、および学外研究者 6 名である。プロジェクト統括者はバレエ研究所　小山久美所長である。

平成 27 年の研究開始時点から、研究員の死去等に伴い、研究員の変更があった。昭和音楽大学　根木昭教授、また公益社団法人日本バレエ協会　薄井憲二会長は研究員であったが、それぞれ平成 28 年、平成 29 年にご逝去された。結果、研究員一覧にはお名前が記載されていない。また国立情報学研究所　高野明彦教授に、情報学の第一人者として研究に加わって頂いた。

研究員はバレエや芸術運営の専門家だけでなく、デジタルアーカイヴ構築の専門家、またバレエ団運営に携わる実務家等で構成されている。よって多角的で学際的な研究を行うことが可能となった。

本研究では、研究者だけでなくバレエダンサーやバレエ公演制作者、またバレエ評論家など、バレエに関わる多方面の関係者にとっても「使える」バレエ情報拠点構築を目指しており、本研究の組織体制もその目的を鑑みた結果である。

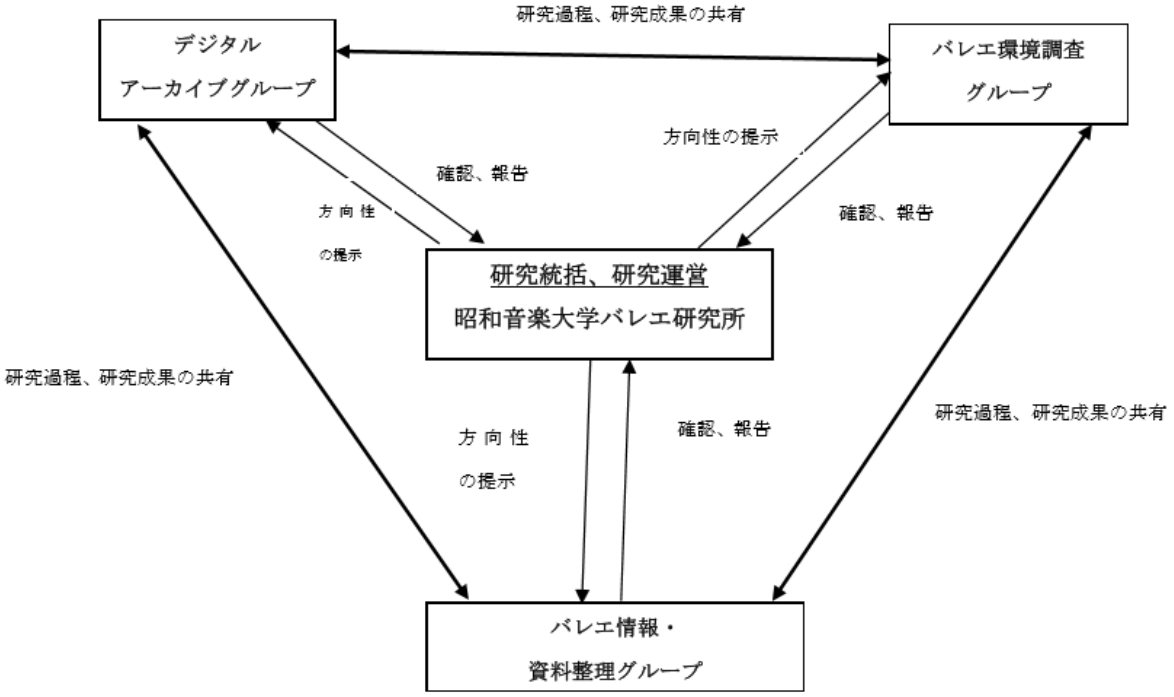
研究者は以下のとおり 3 つあるグループ（バレエ情報・資料整理グループ、デジタルアーカイブグループ、バレエ環境調査グループ）のいずれかに属し、運営を行った。グループごとに

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

研究を進めると同時に、研究内容が有機的に結びつくよう、コミュニケーションを図った。
　また研究全体を対象とする研究員会議を開催し、研究員同士での情報共有を図り、全体の意思決定を行った。バレエ研究所は調査研究を行うほか、各グループの報告を受けて、全体のとりまとめを行った。またバレエ研究所では事業運営に関わる事務、経理等も行った。

1. バレエ情報・資料整理グループ （尾崎、石田、溝上、大原、高橋、松澤）
2. デジタルアーカイブグループ （高野、小山、尾崎）
3. バレエ環境調査グループ （小山、海野、岩部、小尻、松澤）

【図 2】 研究組織の概要



協力団体
　また以下 2 団体にも国内バレエ環境に関する調査において、本研究に協力いただいた。調査対象を日本全国とするため、全国に拠点を持つ業界団体の協力が不可欠であった。
　　公益社団法人　日本バレエ協会
　　チャコット株式会社

その他
　また本研究には 20 歳代前半から中盤のバレエに関する専門知識を持った学生等が携わった。バレエのアーカイヴ化作業の現場に、20 歳代前半の人材が携わることで、若手の育成につながった。

（3）研究施設・設備等

　昭和音楽大学北校舎 2 階　昭和音楽大学バレエ研究所（神奈川県川崎市麻生区万福寺 1 丁目 16−6）を拠点とする。面積は 49 ㎡である。現在は所長 1 名、研究員 1 名、職員 1 名が在籍している。また学外研究員も必要に応じて本研究所を利用し、研究を行っている。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

バレエ研究所内には資料保存のため専用資料保管庫、資料保存のためのアーカイバル容器、アーカイバルバインダー、アーカイバルホルダー、ドキュメントボックスを備えている。
またバレエ資料デジタル化のためのフラットベットスキャナー1 台とブックスキャナー1台、カラー複合機 1 台、デスクトップ PC、ラップトップ PC、研究に必要なソフトウェア、資料公開のための iPad が設置され、また使用されている。

（4）研究成果の概要　※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

研究はほぼ当初の計画どおりに進み、各グループがそれぞれに成果を上げた。また各グループは緊密に連携を取り、その成果は昭和音楽大学バレエアーカイヴ、昭和音楽大学デジタルバレエアーカイヴ、バレエ教育に関する全国調査といったかたちで結実した。

グループごとの研究成果

1．バレエ情報・資料整理グループ

本グループはアーカイヴの基礎となるバレエ公演プログラム、バレエ関連書籍、視聴覚資料、またその他関連資料の収集を目的としたグループである。

1．1<u>昭和音楽大学バレエアーカイヴの構築・完成</u>*1

バレエ研究所は国内唯一の大学付属バレエ研究機関であり、またバレエ関連資料を多数所蔵し、バレエに関する研究の実績もあった。しかしながら同時に、本事業以前はアーカイヴとして鑑みた場合、所蔵資料に抜けが多く、また保存や管理も適切になされていなかった。本事業を通じて網羅的にバレエ資料の収集を行い、保存・管理を適切にすることで、バレエアーカイヴを構築した。

1．2バレエ公演プログラム冊子の収集・整理

バレエ研究所は本事業以前から舞踊評論家山野博大氏から寄贈されたバレエ公演プログラム 1 万点をはじめとする、バレエ公演プログラムコレクションを所蔵していた。本コレクションは 1940 年代から現代に至るまでの貴重なバレエ公演に関する記録ではあるが、個人によるコレクションが元であるため、収集が不十分な年代や地域もあった。本事業ではコレクションを精査した上で、購入が可能なプログラムに関しては購入し、またバレエ関係者や愛好家に寄贈を呼び掛け、拡充を図った。またプログラムに付随するチケットやチラシ、配役表なども、公演に関する貴重な情報源として、収集・管理した。公演プログラムは年代別に保存ボックスで管理した。

1．3バレエ関連書籍・視聴覚資料の収集

バレエ研究所は本事業以前から多くのバレエ関連書籍や視聴覚資料を所蔵していたが、同時に不足している分野や資料も多かった。所蔵資料を整理したのちに、新たに収集が必要な資料を精査する作業を行った。バレエに関する書籍の一覧を新たに作成した上で、バレエ研究所所蔵資料との照合を行った。本事業でコレクション拡充を行った結果、国内でも有数の所蔵となった。またオーラルヒストリーの収集も行った。

1．4貴重コレクションの受け入れ

事業中に広く関係者に寄贈を呼び掛けた結果、日本バレエ史に名前を残すアーティストや関係者から、貴重なコレクションの寄贈があった。平成 29 年にはスターダンサーズ・バレエ団創設者太刀川瑠璃子氏が収集した新聞スクラップ、ブロマイドを受け入れた。

1．5保存環境の整備、劣化資料の修復

貴重資料保存のため、専用棚を購入し、研究所内に設置した。また効率的に保存できるよ

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

うに研究所全体のレイアウトを見直し、全体の配置を大幅に入れ替えた。管理番号を配し、管理を徹底した。また専用のアーカイバル容器を購入し、貴重資料を適切な容器で管理した。またブロマイド等はアーカイバルバインダーに収納し、汚染ガス吸着シートを資料の間に挟み込む作業を行った。また規格外サイズの貴重資料に関しては専用のスリムボックスで管理することとした。劣化の進んだ貴重書に関しては平成 30 年に専門業者に依頼し、保存修復手当を行った。

１．６資料分類の構築

バレエ関連資料は高度に専門的であるため、一般の図書館分類のみでは不十分である。音楽図書館や資料室の分類を参考としながら、所蔵資料を鑑みた上で、バレエ研究所独自のバレエ資料分類を構築した。分類を決定したのち、研究所の資料すべてを分類どおりに並べ替える作業を行った。

１．７昭和音楽大学バレエ研究所所蔵資料システムの構築・完成*2

バレエ研究所内に所蔵している資料データの管理システムを構築した。所蔵資料を整理したのち、管理番号を割り振った。Excel で資料のデータを入力し、その後、構築したシステムにデータを移行した。本システムの完成により、バレエ研究所所蔵資料をいつでもどこからでも検索することが可能となった。

１．８関係機関との提携強化

資料の収集を強化するために、国内バレエ団や海外バレエ団招へい元との提携関係強化を行い、バレエ公演プログラムの寄贈を受けた。また国内の音楽資料室等とも、重複した資料の譲渡などにおいて関係を強化した。

１．９国内外ダンスアーカイヴに関する調査・研究

国内外のダンスアーカイヴに関して調査・研究を行い、事業の方向性に反映させた。薄井憲二バレエコレクション特別展（横浜そごう美術館、平成 30 年 12 月）や薄井憲二バレエコレクション常設展（兵庫県立芸術文化センター、令和元年 12 月）の視察を行うほか、平成 28 年には世界で最も規模の大きいダンスアーカイヴと言われるニューヨーク公共図書館ジェローム・ロビンズ・ダンス・アーカイヴのダンスキュレーターと、ダンスアーカイヴをめぐる可能性や問題点について意見交換を行った。

２．デジタルアーカイブグループ

本グループは日本のバレエ公演に関するデジタルアーカイヴ構築を目的としたグループである。国立情報学研究所高野明彦研究室の技術支援を受けて研究を行った。

２．１昭和音楽大学デジタルバレエアーカイヴの設計・完成*3

バレエ情報・資料整理グループで収集・整理したバレエ公演プログラムや付随資料を元に、1940 年代から現代にいたるまでのバレエ公演情報をデータ化し、アーカイヴ化した。結果、公演データが一ヵ所に集積され、検索できるようになり、利用者は日本におけるバレエ公演データにいつでも、どこからでもアクセスできるようになった。また本デジタルアーカイヴでは作品の上演回数推移グラフを表示することなどが可能となった。またそれが社会で起きた出来事、バレエ界で起きた出来事と共に表示されるなど、デジタルアーカイヴならではのデータの見せ方の工夫を多く行った。加えて人物や作品のマスターデータには、関連する書籍へのリンクをつけるなど、単なる公演データベースではなく、データを見せる工夫、つなげる工夫を随所に行った。

２．２企画展「日本におけるバランシン」の開催（日時：平成 29 年 8 月 5 日・6 日、場所：新国

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

立劇場オペラパレスホワイエ）*4

平成 29 年 8 月、東京・初台の新国立劇場オペラパレスホワイエにて、20 世紀を代表する振付家であるジョージ・バランシン（以下バランシンとする）に焦点を当てた企画展を開催した。本事業で収集したバレエ資料、また本事業で構築したデジタルアーカイヴを活用して、日本におけるバランシン作品受容史に関する展示を行った。1940 年代から現代に至るまでのバランシン作品上演件数の推移、バランシン作品演目別上演件数一覧、上演史年表パネル、バランシン作品の歴代上演会場マップ、ダンサーがバランシンについて語るオーラルヒストリー展示、ニューヨーク・シティ・バレエ団来日時の公演プログラム展示などの内容である。来場者は研究者や愛好家などが中心で、来場数は約 1 千人であった。会期中や会期後には、SNS を通じて、「面白い内容だった」、「同様の展示をまた開催して欲しい」等、数多くの好意的なコメントが寄せられた。

2．3企画展「日本における『白鳥の湖』」の開催（日時：平成 31 年 4 月 27 日・28 日・29 日、場所：東京文化会館大ホールホワイエ）*5

平成 31 年 4 月、東京・上野の東京文化会館の「上野の森バレエホリデイ」会場内にて、日本における『白鳥の湖』上演史に焦点を当てた企画展を開催した。内容は 1940 年代から現代にいたるまでの、日本における『白鳥の湖』上演件数推移グラフ、日本で初めて『白鳥の湖』全幕公演が行われた際の公演プログラムデジタル展示、1940 年代から現代にいたるまでの『白鳥の湖』公演プログラム表紙一覧、全幕作品上演回数における『白鳥の湖』の割合に関するパネル展示などである。本展示では愛好家や研究者だけなく、親子連れや若年層の来場も数多くあった。「上野の森バレエホリデイ」来場者は 3 日間で約 8 万 1 千人である。

2．4データの入力作業（メタデータの拡充）

データベースの充実を図るために、本事業を通じて公演情報（イベント名、ダンサー名、主催者名、作品情報、関係者名、その他）入力を行った。メタデータの質を確保するために、データ入力はすべてバレエ研究所内で行った。所内スタッフが手作業で行ったため、本事業を通じて公演データ入力のノウハウが所内に蓄積された。

2．5データの統合作業（マスターデータの作成）

バレエは外来語が多く、人名や作品名に表記ゆれが多く発生する。例えば振付家バランシンにはバランシーン、バランチンなど様々な表記があり、検索の際の障害となっていた。よって人名、作品名、バレエ団名、公演会場名等の固有名詞にはマスターデータを作成し、網羅的に検索することを可能とした。

2．6バレエ資料のデジタル化

希少性の高いバレエ公演プログラムを選別し、撮影やスキャンなどでデジタル化を行った。特に 1940 年代、1950 年代の公演プログラムに関しては希少性が高く、また資料が劣化していることから、デジタル化の必要があった。また公演プログラムに付随する配役表やチケットも、スキャナー等でデジタル化を行った。所内にフラットベッドスキャナー、ブックスキャナーを設置し、所内でもバレエ資料のデジタル化を行うことで、研究所内にデジタル化のノウハウを蓄積した。

2．7パフォーミングアーツに関わるデジタルアーカイヴやデータベースに関する調査

国内外におけるデジタルアーカイヴの動向を把握し、本デジタルアーカイヴの指針の参考とするため、パフォーミングアーツに関わるデジタルアーカイヴのデータベースに関して調査を行った。また Japanese Association for Digital Humanities への出席（平成 30 年 9 月）、舞踊公演アーカイヴに関する座談会（平成 29 年 12 月）、デジタル情報記録管理協会公開講座への参加（平成 29 年 5 月）、デジタルアーカイブ学会への参加（平成 29 年 7 月、平

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

成 30 年 3 月）等を通じて、デジタルアーカイヴ構築やデータベースに関する最新の動向の把握に努めた。本調査の一部は2．8における学会発表に反映されている。

2．8学会発表『日本のバレエ公演をデジタルアーカイブ化する』*6

本グループの研究成果に関して、令和元年 12 月 14 日、「人文科学とコンピューターシンポジウム（じんもんこん）」（場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス）において、『日本のバレエ公演をデジタルアーカイブ化する』と題した学会発表を行った。

3．バレエ環境調査グループ

国内外のバレエ環境を調査することが目的のグループである。

3．1バレエ教育に関する全国調査 2016（全数調査）*7

日本におけるバレエ学習者数、バレエ教室数、バレエ教師数、学習者男女比、レッスン内容等に関する全数調査を 2016 年に実施した。まず全国のバレエ教室を都道府県別に網羅的に調査し、Excel と Access でバレエ教室データベースを構築した。既存のバレエ教室情報に関しては確認と更新を行った。データベース上にある 4,793 件のバレエ教室すべてに調査票を送付した。回収率は 32.5%だった。回収した調査票を精査・分析したのちに、統計的処理を行い、全国のバレエ学習者数、バレエ教師数、男子・女子別のバレエ学習数等を集計した。また本研究所は同様の調査を 2011 年 9 月に行っているため、本調査を行うことで、2011 年の調査と比較して、日本におけるバレエ教育数の推移等を分析することが可能となった。_

3．2全国バレエコンクール調査 2016（全数調査）*8

日本で初めて、全国のバレエコンクールを対象とした全数調査を実施した。日本で実施されているバレエコンクールについて網羅的に情報を収集し、データベースを作成した。そのデータベースを元に 2015 年に予備調査を行い、その結果を元として、2016 年に本調査を行った。各バレエコンクール事務局に質問票を送付し、回答率は 42%だった。本研究を通じて、日本におけるバレエコンクールの総数、バレエコンクール応募者総数、バレエコンクールの開催地分布、各バレエコンクールの創立年、審査内容や受賞者への褒賞等が、初めて明らかとなった。

3．3海外バレエコンクールに関する調査

平成 29 年から平成 30 年にかけて、海外有名バレエ団に所属するダンサーに占める、海外の著名バレエコンクール受賞者の割合を調査した。

3．4調査結果の公開（インターネット、パンフレット、学術論文）*9

本調査結果に関してはバレエ研究所ウェブサイト、パンフレットでその結果を公開し、研究所 Twitter アカウントを通じて研究の一部を公開した。また3.1、3.2の研究に関しては、『音楽芸術マネジメント』Vol.9（2017 年 12 月）、『舞踊學』vol.40（2018 年 3 月）で学術論文として成果を発表した。

＜優れた成果が上がった点＞

昭和音楽大学バレエ研究所デジタルアーカイヴ「バレエアーカイブ」の構築*3

本事業を通じて構築された昭和音楽大学バレエ研究所デジタルアーカイヴは、バレエや芸術の専門家だけでなく情報学の専門家や実務家が加わり、学際的な取り組みの元に構築された、世界的に見ても数少ないバレエ公演記録に関するデジタルアーカイヴである。パフォーミングアーツはアーカイヴ化、またデジタルアーカイヴ化においては遅れた分野と言われている。また公演データの扱いに関しても、記録を残す以上の取り組みをしているアーカイヴは

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

見受けられない。その現状において、昭和音楽大学バレエ研究所デジタルアーカイヴは、1940 年代から現在までのバレエ公演データを扱うデータの継続性、関係者や群舞にいたるまで詳細な人名等の情報が含まれているというデータ量の大きさ等が特徴の、数少ないバレエ公演情報デジタルアーカイヴのひとつである。また作品の上演件数の推移を 1940 年代から現代までグラフで見ることができ、またそれが年表と共に表示されるなど、「データの見せ方」にも様々な工夫をこらしたデジタルアーカイヴでもある。本デジタルアーカイヴは今後、国内・国外において、公演データを元にデジタルアーカイヴを構築する際のモデルケースとなることが期待される。また今後、本事業で構築されたデジタルアーカイヴを使って、例えば日本経済の動向とバレエ公演の動向の関係を研究するなど、学術的にも新たな取り組みを行うことが可能となるであろう。

昭和音楽大学バレエ研究所アーカイヴの構築*1

日本でバレエ研究を行う際、問題となることのひとつは資料拠点・情報拠点の不足であった。バレエに関する資料や情報は圧倒的に不足しており、研究者だけでなく関係者も、研究を進める上で困難が伴った。バレエ研究所は本事業を通じてバレエ関連の資料や情報を収集し、バレエ研究所内に、国内でも有数のバレエ資料の拠点を構築した。バレエ研究所におけるバレエに関連書籍や公演プログラム、視聴覚資料の所蔵点数は、本事業を通じて、日本でも随一となった。本アーカイヴの構築が関係者や研究者に活用されることで、日本におけるバレエ研究がさらに大きく発展をすることが期待される。

バレエ教育に関する全国調査*7

日本におけるバレエ学習者数、またバレエ教室、男女比、年齢分布などは、本研究所の調査がほぼ唯一であり、同種の調査は存在しない。本調査の結果は学術論文だけでなく、広くメディア等にも使用され、日本におけるバレエ学習者規模等を知る際に必須のデータと考えられている。また本調査は 2 回目であり、1 回目から比較して学習者数の増減を測ることが可能となった。

バレエコンクールに関する全国調査*8

「日本のバレエ教育においてバレエコンクールの重要性が増している」というのはバレエ教育の現場で言われて来たことであるが、そのバレエコンクールの全体像である総数等は今まで把握されていなかった。本調査においては、その総数や創立年の分布など、今まで明らかとされなかったバレエコンクールの実態が明らかとなった。本調査の結果は学術論文のみでなく、メディア等でも利用されている。

＜課題となった点＞

昭和音楽大学バレエ研究所は一部のバレエ研究者やバレエ関係者に知られてはいるが、しかし広く親しまれているとは言い難い。本事業中において資料の寄贈を募る際などに、研究所の認知度の低さが課題となった。この問題に対処するため、バレエ研究所は平成 29 年と平成 31 年に企画展を開催するなどして認知度の向上に努めた。企画展は多くの来場者を得ることができ、また来場者によって SNS 上でも企画展の様子が報告されるなど、一定の成果を収めることができた。事業終了後も SNS で発信を行うなどして引き続き研究所の認知度の向上に努める。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

昭和音楽大学が設置する点検評価委員会による自己点検・自己評価を毎年行った。以下の URL から自己点検、自己評価を見ることができる。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

https://www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/information/check.html

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

平成 30 年 10 月、12 月に外部評価を行った。外部評価委員は長野由紀氏（舞踊評論家）、芳賀直子氏（舞踊史研究家）の 2 名である。外部評価委員による評価の詳細は報告書に記載されている。

外部評価委員による評価はおおむね非常に高かった。特に「バレエ資料・情報が不足している日本において、バレエ資料やバレエ情報の拠点を形成する」という事業の趣旨が理解され、高く評価された。

また対応状況に関しては、研究所の存在アピールを SNS 等で行った。事業後も引き続き SNS を活用するなどして研究所の活動の周知に努める予定である。また他組織との協力体制構築に関しては、企画展開催の際などに協力体制を取るなど、さまざまな取り組みを行った。事業後は事業中に行った取り組みを元に、さらなる発展的な協力体制の構築を行う予定である。

＜研究期間終了後の展望＞

本事業を通じて構築した昭和音楽大学バレエ研究所デジタルアーカイヴを、バレエ研究所事業として引き続き維持・発展させていくことを計画している。令和 2 年度は、公開されたデジタルアーカイヴの修正、バレエ資料のさらなる収集、メタデータのさらなる入力と拡充、マスターデータの拡充を予定している。

＜研究成果の副次的効果＞

本研究の成果は学術論文だけでなく、広くテレビや新聞等のメディアでも利用された。 また本研究を通じて、パフォーミングアーツを扱う資料室やバレエ関連団体等とも新たな関係を築くことができた。

12 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

（1）舞踊　（2）バレエ　（3）ダンス
（4）アーカイヴ　（5）デジタルアーカイヴ　（6）全国調査
（7）教育　（8）情報学

13 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

＜雑誌論文＞

1. 小山久美、海野敏「日本のバレエ教育市場の変化：『バレエ教育に関する全国実態調査』に基づく分析」『音楽芸術マネジメント』 vol.9, pp.71-81　2017 年 12 月（査読有）＊7
2. 海野敏、小山久美「日本のバレエ教育の実態および課題：第 2 回『バレエ教育に関する全国調査』に基づく考察」『舞踊學』No.40, pp.14-25　2018 年 3 月（査読有）＊7＊8 *9
3. 小山久美「障害者に対するバレエ・ワークショップにおける効果的な指導方法とは何か―英国フリーフォール・ダンス・カンパニーを例として―」『昭和音楽大学研究紀要』 vol.35 pp.24-38、2016 年 3 月（査読有）
4. 小山久美、平野綾那「日本における障害者のためのバレエ指導の実施向けて ： ボストン・

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

バレエ団アダプティブ・ダンスの指導方策及び体制分析より」『音楽芸術マネジメント』（9）pp.83-91、2017 年
5.根木昭、石田麻子、吉原潤「「オペラ情報ウェブデータベース」の概要と、その構築の意義について」『音楽芸術マネジメント』第 7 号、pp. 127～131、 2015 年 11 月
6.石田麻子「日本のオペラ公演 2014」『日本のオペラ年鑑 2014』pp. 58～76、 2015 年 12 月
7.石田麻子、鈴木とも恵「フランスにおける劇場人材育成の現状～エクサン・プロヴァンス音楽祭を例に」『音楽芸術運営研究』第 9 号、2016 年 3 月（査読有）
8.鈴木とも恵、石田麻子「イタリアにおける劇場人材育成の現状～マルティーナ・フランカのヴァッレ・ディトリア音楽祭を例に～」『音楽芸術運営研究』第 9 号、2016 年 3 月（査読有）
9.石田麻子「日本のオペラ 2015」『日本のオペラ年鑑 2015』pp.24-30、2016 年 12 月
10.石田麻子「日本のオペラ公演 2015」『日本のオペラ年鑑 2015』pp. 57-73、2016 年 12 月
11.閔鎮京、石田麻子「韓国におけるオペラの受容と創造」『音楽芸術マネジメント』第 8 号 pp. 23-34、2017 年 2 月
12.石田麻子、鈴木とも恵「スイスにおける歌劇場人材育成の現状：チューリヒ歌劇場を例に」『音楽芸術運営研究』第 10 号 pp. 25～35、2017 年 3 月
13.鈴木とも恵、石田麻子「イタリアにおける劇場人材育成の現状：ミラノ・スカラ座研修所を例に」『音楽芸術運営研究』第 10 号 pp. 37-48、2017 年 3 月
14.石田麻子「オペラ人材育成の現在」「ファビオ・ルイージ・オペラアリア・マスタークラス」プログラム 2017 年 4 月
15.石田麻子「日本のオペラ 2016」『日本のオペラ年鑑 2016』pp. 24～31、2017 年 12 月
16.石田麻子「日本のオペラ公演 2016」『日本のオペラ年鑑 2016』pp. 58～72、2017 年 12 月
17.閔鎮京、石田麻子「韓国国立オペラ団の歴史及び現状」『音楽芸術マネジメント』第 9 号,pp. 27～41、2018 年 2 月
18.鈴木とも恵、石田麻子「イタリアにおける歌劇場人材の育成と地域経済への貢献の現状」『音楽芸術運営研究』第 11 号,pp. 5～19、2018 年 3 月
19.石田麻子「海外での学修機会の確保とその意義」『音楽芸術運営研究』第 11 号,pp.77～89 2018 年 3 月
20.石田麻子「オペラ劇場の現在～2018」ダニエーレ・ルスティオーニ「オペラ歌手のためのマスタークラス」プログラム 2018 年 6 月
21.石田麻子「日本のオペラ 2017」『日本のオペラ年鑑 2017』pp.24～31、2018 年 12 月
22.石田麻子、大野和士、堀内修「座談会大野和士新国立劇場芸術監督に聞く」『日本のオペラ年鑑 2017』pp, 59～71 2018 年 12 月
23.石田麻子「日本のオペラ公演 2017」『日本のオペラ年鑑 2017』pp.72～87、2018 年 12 月
24.石田麻子「東アジアにおけるオペラの受容構造と創造活動」『音楽芸術運営研究』第 12 号,pp.5～19、2019 年 3 月
25.Bin Umino、Asako Soga、Yuho Yazaki、Motoko Hirayama“Choreographic Education for Contemporary Dance Using 3D Motion Data” Abstracts of the International Symposium on Performance Science 2015 pp.151-152、2015 年 9 月（査読有）
26.Yuho Yazaki、Asako Soga、Bin Umino、Motoko Hirayama“Automatic Composition by Body-Part Motion Synthesis for Supporting Dance Creation,” Proceedings of International Conference on Cyberworlds 2015, vol.1, pp.200-203. 2015 年 10 月（査読有）
27.矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「身体部位動作の自動合成システムを用いた現代舞踊の創作支援」『NICOGRAPH2015 論文集』vol.2015, pp.1-8. 2015 年 11 月（査読有）
28.海野敏、曽我麻佐子、矢崎雄帆、平山素子「モーションデータを用いた舞踊動作の合成原理とその応用: 現代舞踊の振付学習における有用性」『情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2015, pp.277-282、2015 年 12 月（査読有）

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

29.Asako Soga、Bin Umino、Yuho Yazaki、Motoko Hirayama “Body-part Motion Synthesis System and its Evaluation for Discovery Learning of Dance” IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems vol.E99-D, no.4, pp.1024-1031、2016 年 4 月（査読有）
30.Asako Soga、Yuho Yazaki、Bin Umino、Motoko Hirayama “Body-part Motion Synthesis System for Contemporary Dance Creation” Proceeding SIGGRAPH '16 ACM SIGGRAPH 2016 Posters Article no.29 、2016 年 7 月（査読有）
31.矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の創作支援を目的とした動作合成システム: 振付フレーズの自動生成手法」『情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2016, no.2, pp.165-170、2016 年 12 月（査読有）
32.矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の創作支援システムの開発と評価」映像情報メディア学会技術報告, vol.41, no.4, pp.35-38、2017 年 2 月
33. Shohei Yamada、Rui Shimura, Bin Umino、Shinichi Toda、Kyo Kageura“Physico-symbolic characteristics of the Japanese paperback book series Shinsho: A descriptive study,”LIBRES: Library and Information Science Research Electronic Journal, vol.27, no.1, pp.39-52. 2017 年 11 月（査読有）
34.Ruri Shimura、Shohei Yamada、Bin Umino、Shin’ichi Toda、Kyo Kageura、“The structural characteristics of the Japanese paperback book series Shinsho”, Libres, 27, (1) pp.26-38、2017 年 11 月（査読有）
35. Asako Soga、Yuho Yazaki、Bin Umino、Motoko Hirayama “Automatic Synthesizing System of Choreography for Supporting Contemporary Dance Creation” Proceedings of XX Generative Art Conference pp.78-87、2017 年 12 月（査読有）
36.海野敏、曽我麻佐子、矢崎雄帆、平山素子「振付シミュレーションシステムを用いた現代舞踊の実演指導」『情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2017, pp.185-190、2017 年 12 月（査読有）
37.矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の振付学習における動作合成システムの活用」『情報処理学会研究報告』vol.2018-CH-116, pp.1-6、2018 年 1 月
38. Asako Soga、Yuho Yazaki、Bin Umino、Motoko Hirayama“Automatic Synthesizing System of Choreography for Supporting Contemporary Dance Creation,” Generative Art Science and Technology hard Journal, article ID.65. 2018 年 5 月（査読有）
39.海野敏、曽我麻佐子、平山素子「振付シミュレーションシステムを用いたプロ振付家による創作実験」『情報処理学科人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2018、pp.321-326, 2018 年 12 月（査読有）
40.曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の創作支援システムの改良とプロ振付家による評価」『情報処理学会研究報告デジタルコンテンツクリエーション』 vol.2019-DCC-21, no.6, pp.1-6、2019 年 1 月
41.曽我麻佐子、海野敏、平山素子“Body-part Motion Synthesis System for Discovery Learning of Dance: Dance Creation Experiments with Students in Three Countries,” Proc. of Generative Art, Futuring Past, pp.56-65、2019 年 6 月
42.海野敏、曽我麻佐子、平山素子「動作合成システムを用いたプロ振付家による舞踊創作と評論家による評価」『情報処理学科人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2019, pp.25-30、2019 年 12 月（査読有）
43.曽我麻佐子、海野敏、平山素子「プロ振付家による舞踊創作を目的とした動作合成システムの改良と創作実験」『情報処理学会論文誌デジタルコンテンツ（DCON）』vol.8, no.1, pp.29-39、2020 年 2 月（査読有）
44.尾崎瑠衣「オーストラリアにおけるバレエ団運営の事例調査」『平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団マネジメントに係る

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

調査・研究、並びにバレエ環境実態調査」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.1-59 2016 年 3 月

45.尾崎瑠衣「韓国におけるバレエ団の運営実態と助成制度」『平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団マネジメントに係る調査・研究、並びにバレエ環境実態調査」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.63-85 2016 年 3 月

46.尾崎瑠衣「国際プロダンサー転職支援組織（IOTPD）年次総会参加報告」『平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団マネジメントに係る調査・研究、並びにバレエ環境実態調査」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.89-118 2016 年 3 月

47.尾崎瑠衣、平野綾那「バレエ団におけるマーケティング戦略」『平成 28 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団の環境整備」報告書一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.7-77 2017 年 3 月

48.尾崎瑠衣「調査報告スコットランドにおけるバレエ団運営実態と助成制度」『平成 28 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団の環境整備」報告書一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.103-111 2017 年 3 月

49.尾崎瑠衣「調査報告カナダにおけるバレエ団運営の事例調査」『平成 29 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団運営の基盤整備及び制作人材育成」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.141-186 2018 年 3 月

50.尾崎瑠衣「アメリカにおけるバレエ団運営の事例調査」『平成 30 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成並びにバレエ団運営の基盤整備及びマネジメント人材育成」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 pp.25-71 2019 年 3 月

51.尾崎瑠衣「日本のバレエ公演をデジタルアーカイブ化する」『じんもんこん 2019 論文集』pp.91-96, 2019 年 12 月(査読有)＊3＊4＊5＊6

52.一力雅彦、高野明彦、正村俊之、田中淳、吉田寛、橋元良明「震災 3 年目の社会情報学」『社会情報学』3(3), pp.61-86、2015 年

53.阿辺川武、高野明彦「出版図書目録を用いた図書館の所蔵調査」『日本図書館情報学会研究大会発表論文集』63, pp.21-24、2015 年

54.須田山強真、阿辺川武、高野明彦「意味の構成性に基づく句の文脈を考慮したベクトル空間モデル（言語理解とコミュニケーション）」『電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報』115(347), pp.99-107、2015 年 12 月

55.矢野桂司、今村聡、高野明彦、阿辺川武「『平安京オーバーレイマップ』の開発と拡張に関する一考察（河角龍典教授追悼記念論集）」『立命館文學 = The journal of cultural sciences』(649), pp.196-185、2017 年 1 月

56.高野明彦「図書館、未来の書棚、連想」『現代思想』46(18), pp.159-171、2018 年 12 月

57.時実象一、高野明彦、福林靖博「ワールドデジタルライブラリーの動向」『カレントアウェアネス』(342),pp.17-21、2019 年 12 月

58.松澤慶信「舞踊におけるロマン的なるものの美学的考察」『日本女子体育大学紀要』第 47 巻 pp.77-83 2017 年 3 月（査読有）

59.宮本乙女、松山善弘、松澤慶信、小山桂予子、坂本秀子、八木ありさ、髙野美和子、岩淵多喜子「中学校・高等学校における,ダンス指導に有用な映像コンテンツの開発」『日本女子体育大学紀要』47 巻, pp.101-113、2017 年 3 月

60.八木ありさ、安達詩穂、松山善弘、松澤慶信、坂本秀子、宮本乙女、森立子、髙野美和子、岩淵多喜子、石川浩子、渡辺碧「日本女子体育大学舞踊学専攻学生のキャリア意識 : 学年進行との関わりに着目して」『日本女子体育大学紀要』48 巻, pp.123-139、2018 年 3 月

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

61.溝上智恵子「ラーニング・コモンズにおける学修支援の深化をめざして.」『大学の図書』34(8) pp.176-178、2015 年 8 月
62.溝上智恵子「第２次世界大戦下における日系人の高校教育」『カナダ教育研究」（13) pp.43-63、2015 年 8 月
63.Hideo Joho、Masaki Matsubara、Norihiko Uda、Saori Donkai、Chieko Mizoue“ Lifelogging by Senior Citizens in a Highly Ageing Society: A Pilot Study. Proceedings of the Information Research and Learning with Lifelogging Devices” An Interactive and Engagement Session at iConference 2016 (IRLLD 2016). pp.9-12、2016 年 3 月
64.Saori Donkai、Chieko Mizoue、Norihko Uda “Visualizing information seeking behaviors of older adults at public libraries: Reflective learning and information literacy.” Proceedings of the 6th International Conference on Asia-Pacific Library and Information Education and Practice. pp.342-350、2015 年 10 月
65.Saori Donkai、Chieko Mizoue、Hitomi Nakamura “Humanoid robots and the new library services: Investigation of age differences on affinity toward humanoid robots.” Proceedings of the 7th International Conference on Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2016) pp.366-379、2016 年 11 月
66.溝上智恵子、 森利枝「アメリカの高等教育における職業教育と学位. 高等教育における職業教育と学位：アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・中国・韓国・日本の比較研究報告」『学位と大学 』(2), pp.19-34、2016 年 8 月
67.溝上智恵子「米国の事例：学習経験の単位化.」『IDE 現代の高等教育』(590)、pp.50-55、2017 年 5 月
68.溝上智恵子「書評 犬塚典子著『カナダの女性政策と大学』」『カナダ研究年報』(37), pp.33-36、2017 年 9 月
69.溝上智恵子「カナダの道徳教育政策-オンタリオ州を事例として」『カナダ教育研究』(15)、pp.17-33、2017 年 9 月
70.溝上智恵子、中島夏子「ブリティッシュ・コロンビア州における学士課程教育の現状：３大学の事例」『カナダ教育研究』(15), pp.51-54、2017 年 9 月
71.溝上智恵子「短大生調査を利用した教育改善の手法.」『教育制度学研究』(24)、pp.153-154、2017 年 11 月
72.Norihiko Uda、Chieko Mizoue、Saori Donkai、Saki Ishimura “Information Seeking Behaviors of Older Adults in Public Libraries”. Proceedings of the 8th International Conference on Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2017), pp.395-406、2017 年 11 月
73.溝上智恵子「人生 100 年時代の高齢者サービス」『図書館雑誌』112(8)、pp.508-511、2018 年 8 月
74. Uda Norihiko、Mizoue Chieko、Donkai Saori、Ishimura Saki “Information Seeking Behaviors of Older Adults in a Public Library in Japan”LIBRES/28(1)/pp.1-12、2018 年 11 月
75.溝上智恵子「学修成果の可視化を考える：筑波大学の試み」『教育制度学研究』(25), pp.218-220、2018 年 11 月
76.溝上智恵子「多文化主義の再検討：カナダ教育学会第 50 回記念研究会を終えて」『カナダ教育研究』(16), pp.3-4、2018 年 10 月
77.溝上智恵子、大学図書館研究グループ「データリテラシーの論点整理」『図書館界』71(2), pp.129-134、2019 年 7 月
78.溝上智恵子「石岡市立中央図書館創立 130 周年を迎えて」『石岡市立中央図書館創立 130 周年記念誌』/pp.4-4、2019 年 11 月

（様式 2）

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

79.溝上智惠子「カナダ婦人宣教師の教育支援：第2次世界対戦時の強制収容された日系カナダ人生徒への支援」『史料室だより』/(93)/pp.2-5、2019 年 11 月
80. Uda Norihiko、Donkai Saori、Joho Hideo、Yoshida Yuko、Mizoue Chieko "Design of the Informatics Degree Program in University of Tsukuba : from Library and Information Science Education to Informatics Education"Proceedings of the 9th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2019),pp.170-183、2019 年 11 月
81.Tokii Maki、Mizoue Chieko、Hasegawa Hidehiko "Development of Data Science for Working Women"Proceedings of the 9th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2019),pp.27-38、2019 年 11 月
82.溝上智惠子「カナダのデータリテラシー教育について」『カナダ教育研究』17 号,pp.55-60、2019 年 10 月

＜図書＞

1. 山田和樹、西村朗、石田麻子「我が国のオーケストラの今後について」『オーケストラ解体新書』中央公論新社,pp.203～229、2017 年 9 月
2. Asako Ishida "Jouer l'opéra au Japon: réception et tendances actuelles"『Corps et Message ～De le Structure de la traduction et de l'daptation』Editions Picquier, 2019 年 2 月
3. 海野敏「クラウド」「アプリ」「ドローン」「ネット依存」「電子マネー」『メディア用語基本事典第 2 版』世界思想社, 2019 年 5 月（共著）
4. 海野敏「ロイヤル・スタイルと日本的な美徳の結合～吉田都の舞踊と人物」『吉田都 永遠のプリンシパル』河出書房新社, pp.108-111. 2019 年 8 月（共著）
5. 松澤慶信「第 3 部偏在するダンス—誰もが踊る? 舞踊教育と教育舞踊、そしてコンテンポラリーダンスのテクニックに関して」『早稲田大学演劇博物館 Who Dance?振り付けのアクチュアリティ』pp.158-165 2015 年 12 月＊1
6. 溝上智惠子、毛利るみこ『第8章 国が考える図書館政策. 図書館情報学を学ぶ人のために』世界思想社, pp.77-87、2017 年 4 月
7. 溝上智惠子『サード・エイジ：超高齢社会を支える高齢者と図書館. 超高齢社会と図書館—生きがいづくりから認知症支援まで』, 国立国会図書館. pp.56-69、2017 年 3 月
8. 溝上智惠子『マニトバ学校問題—カナダ多文化教育の原点. カナダの歴史を知るための 50 章』, 明石書店, pp.130-135、2017 年 8 月
9. 溝上智惠子『学習支援と教養の形成. グローバル社会における高度教養教育を求めて』, 東北大学出版会, pp.327-338、2018 年 3 月
10. 中島夏子、溝上智惠子『 カナダ BC 州における学士課程教育-UBC・SFU ・UVic の3事例. グローバル社会における高度教養教育を求めて』 東北大学出版会, pp.237-248、2018 年 3 月
11. 溝上智惠子「高齢者の生活行動データベースの構築および可視化による振り返り学習の実践」『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業研究成果報告書』2018 年 3 月
12. 溝上智惠子「カナダの大学」『大学事典』, 平凡社, pp.115-118、2018 年 6 月
13. 溝上智惠子「電子ジャーナル/電子書籍」『大学事典』平凡社, pp.666-666, 2018 年 6 月
14. 溝上智惠子「電子図書館」『大学事典』平凡社, pp.666-667, 2018 年 6 月
15. 溝上智惠子「高齢で図書館利用に障害のある人」『図書館利用に障害のある人々へのサービス 』上巻, 日本図書館協会, pp.73-75, 2018 年 8 月
16. Mizoue Chieko "Chapter 1 The Current Status of Aging"Report on design of a lifelong learning institutions on a super aging society with ICT, pp.5-16、2019 年 2 月

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

17. Mizoue Chieko “Chapter 2 Sustainable Development Goals and Institutions for lifelong learning”Report on design of a lifelong learning institutions on a super aging society with ICT, pp.17-28、2019 年 2 月
18. Mizoue Chieko “Chapter 3 The trend of UNESCO-led lifelong learning”Report on design of a lifelong learning institutions on a super aging society with ICT, pp.29-37、2019 年 2 月
19. Saori Donkai、Chieko Mizoue “Chapter 5: Health Literacy and Library Medical/Health Information Services”Report of Design of a lifelong learning institutions on a super aging society with ICT、2019 年 2 月

＜学会発表＞

1. 小山久美、海野敏「日本のバレエ教育環境の実態分析—『バレエ教育に関する全国調査』基本報告」日本音楽芸術マネジメント学会研究大会 2016 年 12 月 18 日＊7
2. 小山久美「日本における障害者のためのバレエ指導の実施向けて ： ボストン・バレエ団アダプティブ・ダンスの指導方策及び体制分析より」音楽芸術マネジメント、2016 年 12 月
3. 閔鎮京、石田麻子「韓国におけるオペラ受容と創造の現在」日本音楽芸術マネジメント学会、2015 年 12 月
4. 閔鎮京、石田麻子「韓国の国立オペラ団の歴史及び現状」日本音楽芸術マネジメント学会、2016 年 12 月
5. 閔鎮京、石田麻子「地域との関係構築からみたオペラハウスのマネジメント～韓国・テグオペラハウスを事例に～」日本音楽芸術マネジメント学会、2018 年 12 月
6. 石田麻子「アーツカウンシル・イングランドとロイヤル・オペラハウス ～芸術団体運営におけるレジリエンス確保の方策～」日本音楽芸術マネジメント学会、2019 年 12 月
7. 鈴木晶、海野敏「パリ・オペラ座バレエのレパートリー、とくに上演頻度上位の作品の経年変化～全上演記録の分析をもとに」舞踊学会 第 20 回定例研究会, 2015 年 6 月
8. Yuho Yazaki、Asako Soga、Bin Umino、Motoko Hirayama“Automatic Composition by Body-Part Motion Synthesis for Supporting Dance Creation”International Conference on Cyberworlds 2015, Gotland, 2015 年 10 月
9. 矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「身体部位動作の自動合成システムを 用いた現代舞踊の創作支援」NICOGRAPH2015, 2015 年 11 月
10. Bin Umino、Asako Soga、Yuho Yazaki、Motoko Hirayama“Choreographic Education for Contemporary Dance Using 3D Motion Data”International Symposium on Performance Science 2015, 2015 年 9 月
11. 海野敏、曽我麻佐子、矢崎雄帆、平山素子「モーションデータを用いた舞踊動作の合成原理とその応用: 現代舞踊の振付学習における有用性」情報処理学会 人文科学とコンピュータシンポジウム, 2015 年 12 月
12. Asako Soga、Yuho Yazaki、Bin Umino、Motoko Hirayama“Body-part Motion Synthesis System for Contemporary Dance Creation,”SIGGRAPH 2016, 2016 年 7 月
13. 矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の創作支援を目的とした動作合成システム：振付フレーズの自動生成手法」情報処理学会 人文科学とコンピュータシンポジウム, 2016 年 12 月
14. 矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の創作支援システムの開発と評価」映像情報メディア学会, 2017 年 2 月
15. 海野敏「コンピュータとダンス：モーションデータが触発する振付創作」東洋大学国際哲学研究センター 研究ユニット「情報科学技術社会」キックオフミーティング, 2017 年 6 月
16. 海野敏「都立図書館の将来像：ネットワーク社会で公共図書館は消えてゆくのか」東京都

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

都立中央図書館, 2017 年 9 月

17. Asako Soga、Yuho Yazaki、 Bin Umino、Motoko Hirayama“Automatic Synthesizing System of Choreography for Supporting Contemporary Dance Creation”XX Generative Art Conference, 2017 年 12 月

18. 海野敏、曽我麻佐子、矢崎雄帆、平山素子「振付シミュレーションシステムを用いた現代舞踊の実演指導」情報処理学会 人文科学とコンピュータシンポジウム, 2017 年 12 月

19. 矢崎雄帆、曽我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の振付学習における動作合成システムの活用」情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究発表会, 2018 年 1 月

20. 海野敏「図書館情報学教育の現状とこれから」日本図書館情報学会, 2019 年 3 月

21. Asako Soga、Bin Umino、Motoko Hirayama“Body-part Motion Synthesis System for Discovery Learning of Dance: Dance Creation Experiments with Students in Three Countries,”Proc. of Generative Art, Futuring Past、2019 年 6 月

22. 海野敏「舞踊研究におけるコンピュータ利用：モーションデータが触発する振付創作」舞踊学会大会、2019 年 12 月

23. 海野敏、曽我麻佐子、平山素子「動作合成システムを用いたプロ振付家による舞踊創作と評論家による評価」情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム、2019 年 12 月

24. 尾崎瑠衣「日本のバレエ公演をデジタルアーカイブ化する」情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム、2019 年 12 月＊3＊4＊5＊6

25. 溝上智恵子、海沙織 「イギリスの公共図書館における認知症支援サービス」. 2015 年度日本図書館情報学会春季研究集会、2015 年 5 月

26. 溝上智恵子、海沙織「ラーニング・コモンズの新たな展開-カナダの事例から」日本高等教育学会第 18 回大会、2015 年 6 月

27. Chieko Mizoue “Catholic Support and Response to Japanese Education in Canada during World War II.” 82nd Annual Conference of the Canadian Catholic Historical Association、2015 年 6 月

28. 松原正樹、上保秀夫、宇陀則彦、呑海沙織、溝上智恵子「高齢者の情報行動にかかるデータ収集と可視化」 DEIM Forum 2016、2016 年 3 月

29. 金子元久、森利枝、溝上智恵子「大学と職業教育」日本高等教育学会第 19 回大会、2016 年 6 月

30. 中島夏子、溝上智恵子「BC 州における学士課程教育の現状：3大学の事例」カナダ教育学会第 47 回研究会、2016 年 6 月

31. 溝上智恵子「国際比較の観点から見た戦争博物館-イギリス、カナダ、オーストラリア」大東文化大学法学研究科講演会、2016 年 10 月

32. 呑海沙織、溝上智恵子、顧雅威「日本の大学図書館における学生スタッフの役割の変遷」日本高等教育学会第 20 回大会、2017 年 5 月

33. 溝上智恵子「学修成果の可視化を考える-筑波大学の試み」 日本教育制度学会第 25 回大会、2017 年 11 月

34. 溝上智恵子「カナダのデータリテラシー教育について」カナダ教育学会第 52 回研究会、2018 年 12 月

35. 溝上智恵子「データリテラシーの論点整理」日本図書館研究会第 60 回研究大会、2019 年 2 月

36. 溝上智恵子、呑海沙織、淺川瑞貴「データライブラリアンに求められる能力ー北米の求人情報分析」日本高等教育学会第 22 回大会、2019 年 6 月

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

37. Donkai Saori、Mizoue Chieko “Building Dementia Friendly Library Model in Japan” 2nd International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases、2019 年 3 月
38. 平山久美子、Jacqueline Gresko、溝上智恵子、原口邦紘「シンポジウム：カナダ・カトリック教会と近代日本の教育」日本カナダ学会第 44 回年次研究大会、2019 年 9 月
39. 溝上智恵子「第2次世界大戦中の日系カナダ人支援：合同教会の事例」カナダ教育学会第 54 回研究会、2019 年 12 月
40. Tokii Maki、Mizoue Chieko、Hasegawa Hidehiko、Umeda Megumi“Development of Data Science Program for Working Women”the 9th Asia-Pacific Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2019)、2019 年 11 月

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
＜既に実施しているもの＞
【パンフレット】
『バレエ教育に関する全国調査 2016』（平成 29 年度に配布済）*7
研究成果をまとめたパンフレットを作製し、バレエ教育機関、研究者や関係者等、約 1500 件に配布した。内容は日本におけるバレエ学習者数、バレエ教室数等である。
『バレエセンター機能の構築』（平成 30 年 5 月に配布済）＊7＊8
平成 29 年度末までの研究成果等を全 8 ページのパンフレットとしてまとめ、約 1600 件のバレエ教育機関や関係者、メディア等に送付した。パンフレットの内容は研究概要、「（1）バレエ情報・資料整理グループ」、「（2）デジタルアーカイブグループ」の研究成果発表の報告と、「（3）バレエ環境調査グループ」の調査報告である。
【インターネット】
「バレエ教育に関する全国調査 2016」（平成 29 年度に公開）*7
パンフレットを PDF 化し、バレエ研究所ウェブサイトにて公開している。
http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/albums/abm.php?f=abm00004246.pdf&n=%E3%80%8E%E3%83%90%E3%83%AC%E3%82%A8%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E5%85%A8%E5%9B%BD%E8%AA%BF%E6%9F%BB2016%E3%80%8F%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C.pdf
「バレエ情報センター機能の構築」事業紹介パンフレット（平成 30 年度に公開）＊7＊8
パンフレットの内容をバレエ研究所ウェブサイトでも公開している。
http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/albums/abm.php?f=abm00005412.pdf&n=BalletResarchCenter_Report2018.pdf
昭和音楽大学バレエ研究所「バレエアーカイブ」（デジタルアーカイヴ）（令和 2 年 3 月に公開）*3
1940 年代から今日にいたるまでのバレエ公演約 1 万件に関する情報をデータ化し、日本におけるバレエ公演のデジタルアーカイヴを構築した。完成したものを令和 2 年 3 月に公開した。
https://ballet-archive.tosei-showa-music.ac.jp
昭和音楽大学バレエ研究所「バレエライブラリー」（所蔵資料データベース）（令和 2 年 3 月に公開）*2
昭和音楽大学バレエ研究所が所蔵するバレエ関連の書籍や資料をデータベース化し、いつでも、どこからでも検索できるようにした。
https://ballet-library.tosei-showa-music.ac.jp
昭和音楽大学バレエ研究所公式 Twitter （@ShowaBRC）
バレエ研究所公式 Twitter アカウントを通じて、随時、研究成果を紹介している。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

【展示開催】
企画展『日本におけるバランシン』（日時：平成 29 年 8 月 5 日、6 日　場所：新国立劇場オペラパレスホワイエ、来場者数：約 1,000 人） *4
日本におけるバランシン作品の上演史に着目し、企画展を新国立劇場オペラハウスで開催した。来場者数はのべ約 1000 人である。
企画展「日本における『白鳥の湖』」の開催（平成 30 年 4 月 27 日、28 日、29 日　場所：東京文化会館大ホールホワイエ、来場者：約 81,000 人） *5
日本における『白鳥の湖』上演史に着目し、企画展を東京文化会館ホワイエで開催した。来場者はのべ約 81,000 人である。
＜これから実施する予定のもの＞

14　その他の研究成果等

＜新聞報道等＞
“栄光へ導いた日本バレエ”『読売新聞』2016 年 6 月 14 日＊7
“バレエの若手　世界に舞う”『朝日新聞』2016 年 11 月 28 日＊7
“熱狂 2017 ローザンヌ　人材流出の危機も”『読売新聞』 2017 年 1 月 26 日＊7
“頭で理解したことを身体で表現する・「バレエはコミュニケーション」”『こどもまなび☆ラボ』2018 年 2 月 28 日＊7
“バレエ鑑賞のススメ”『読売中高生新聞』2018 年 3 月 16 日＊7＊8
“県内バレエ事情　少子化などで厳しい経営”『佐賀新聞』 2018 年 5 月 24 日＊7
“ママでも現役バレリーナ”『NHK NEWS WEB』2018 年 9 月 6 日　*7
“世界最高峰のボリショイ劇場　舞台裏で躍動する日本人元バレリーナ”『CINEPHORIA』2018 年 10 月 17 日 *7
“関西から世界へ　バレエダンサー育成 ”『読売新聞オンライン』 2019 年 2 月 5 日*7*8
“世界で日本人バレリーナが活躍する理由は？　日本のバレエは 4.0 時代へ ”『AERA』| 2019 年 6 月 10 日 *7*8
＜TV 等＞
ぼくらはマンガで強くなった「夢をカタチに！究極の肉体表現“バレエ”」 NHKBS1　2017 年 1 月 20 日　＊7
「N スタ　モスクワバレエコンクール」 TBS　2017 年 6 月 21 日　＊7
「ごごナマ」バレエ界の世界的スター　マニュエル・ルグリさんが生出演　NHK 総合　2018 年 5 月 7 日＊7

（様式 2）

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

＜「選定時」に付された留意事項＞
なし

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

＜「中間評価時」に付された留意事項＞
なし

＜「中間評価時」に付された留意事項への対応＞

（様式2）

法人番号	14016
プロジェクト番号	S1591007

16　施設・装置・設備・研究費の支出状況（実績概要）　（千円）

年度・区分		支出額	内訳						
			法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他（　　）	備考
平成27年度	施設	0							
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	8,554	4,586	3,968					
平成28年度	施設	0							
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	11,954	6,923	5,031					
平成29年度	施設	0							
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	11,129	7,944	3,185					
平成30年度	施設	0							
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	8,173	4,473	3,700					
令和元年度	施設	0							
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	9,808	5,403	4,405					
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	49,618	29,329	20,289	0	0	0	0	
総計		49,618	29,329	20,289	0	0	0	0	

（様式2）

法人番号	14016

17 施設・装置・設備の整備状況 （私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施　設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）　（千円）

施設の名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
バレエ研究所（昭和音楽大学北校舎内）	—	49㎡	1	13	—	—	—

※ 私学助成による補助事業として行った新増築により、整備前と比較して増加した面積　0　㎡

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）　（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
（研究装置）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
（研究設備）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
（情報処理関係設備）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況　（千円）

年度	平成　27　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	761	消耗品購入	761	NTTデータ購入費（678,018）、消耗品費（82,485）
光熱水費	0		0	
通信運搬費	65	資料運搬、他	65	資料運搬費（1,692）、通信費（63,218）
印刷製本費	91	専用コピー機使用料、他	91	
旅費交通費	8	打ち合わせ・出張交通費	8	
報酬・委託料	4,035	バレエアーカイブ、外部研究員報酬	4,035	バレエアーカイブ委託費（4,017,600）、外部研究員報酬（17,777）
（　賃借料　）	80	ホスティングサービス利用	80	ホスティングサービス（8月～3月利用分）
（出版物費）	220	調査研究参考資料購入	220	
計	5,260		5,260	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	3,294	アルバイト人件費	3,294	時給950円，年間時間数1,804時間 時給940円、年間時間数1,264時間 実人数　2人
教育研究経費支出	0			
計	3,294		3,294	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0			
図書	0			
計	0			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

（様式2）

法人番号	14016

年度	平成　28　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	1,047	消耗品購入	1,047	NTTデータ購入費（140,400）、消耗品費（98,242）、書庫（422,305）、データ入力用PC（350,568）全国調査関連消耗品費（35,532）
光熱水費	0		0	
通信運搬費	1,335	資料運搬、他	1,335	資料運搬費（10,190）、NTT通信費（82,043）、全国調査関連通信運搬費（1,235,797）、コンクール調査関連通信運搬費（7,095）、海外通信費（110）
印刷製本費	840	専用コピー機使用料、全国調査関連印刷費	840	専用コピー機使用料（193,261）、全国調査関連印刷費（465,104）、全国調査結果送付関連印刷費（181,562）
旅費交通費	10	打ち合わせ・出張交通費	10	
報酬・委託料	745	調査関連委託費、外部研究員報酬	745	全国調査関連委託費（539,385）、ウェブサイト制作委託費（194,400）、分科会謝金（11,110）
（　賃借料　）	119	ホスティングサービス利用	119	
（　出版物費）	869	調査研究参考資料購入	869	
（　広告費　）	81	全国調査関連告知広告費	81	
計	5,046		5,046	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	4,615	アルバイト人件費	4,615	時給980円　年間時間数2,088時間 時給970円　年間時間数1,729時間 実人数2人
教育研究経費支出	0			
計	4,615		4,615	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	2,293		2,293	スキャナ（1,689,120）、スライド式固定収納庫（603,695）
図書	0			
計	2,293		2,293	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

（様式2）

法人番号	14016

年度	平成　29　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	149	消耗品購入	149	展示使用消耗品（12,123）、消耗品費（111,771）、インターフェイスパネル（24,840）
光熱水費	0		0	
通信運搬費	93	資料運搬、等	93	資料運搬費（35、697）、通信費（57,571）
印刷製本費	727	専用コピー機使用料、他	727	専用コピー機使用料（129,600）、バレエ研事業パンフレット印刷費（539,460）、その他印刷費（58,400）
旅費交通費	50	打ち合わせ・出張交通費	50	
報酬・委託料	4,188	調査関連委託費	4,188	展示関連委託費（565,785）、コンクール調査集計委託費（283,500）、バレエアーカイブシステムデータ整備委託費（2,970,000）、貴重資料デジタル化アドバイザリー及びスキャニング作業委託費（277,830）、その他委託費（90、568）
（　賃借料　）	119	ホスティングサービス利用	119	
（　出版物費　）	545	調査研究参考資料購入	545	
計	5,871		5,871	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	4,823	アルバイト人件費	4,823	時給1,020円　年間時間数2,486時間 時給1,010円　年間時間数1,745時間 実人数　2人
教育研究経費支出	0			
計	4,823		4,823	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	435		435	スキャナ（270,000）、記録用デジタルビデオカメラ（165,024）
図書	0			
計	435		435	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

（様式2）

法人番号	14016

年度	平成　30　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	434	消耗品購入	434	資料保存器材(381,747)、消耗品費(51,818)
光熱水費	0		0	
通信運搬費	319	資料運搬、他	319	事業パンフレット発送料(274,812)、資料運搬費(8,361)、通信費(35,737)
印刷製本費	130	専用コピー機使用料、他	130	専用コピー機使用料(129,600)
旅費交通費	7	打ち合わせ・出張交通費	7	
報酬・委託料	3,127	バレエアーカイブ関連委託費、外部報酬	3,127	貴重資料修復作業委託費(170,856)バレエアーカイブ委託費(2,376,000)、資料デジタル化作業関連委託費(490,762)、外部評価員謝金(44,444)、評価レポート執筆料(44,444)
（賃借料）	119	ホスティングサービス利用	119	
（出版物費）	1,500	調査研究参考資料購入	1,500	
計	5,636		5,636	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	2,429	アルバイト人件費	2,429	時給1,110円，年間時間数2001時間 時給990円、年間時間数297時間 実人数　2人
運営補助員	108		108	時給990円，年間時間数98時間 実人数　1人
教育研究経費支出	0			
計	2,537		2,537	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0			
図書	0			
計	0			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

（様式2）

法人番号	14016

年度	令和　　元　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	487	消耗品購入	487	展示使用消耗品費（1,640）、データ入力用PC（250,360）、閲覧用ブルーレイプレイヤー（39,750）、消耗品費（195,314）
光熱水費	0		0	
通信運搬費	58	資料運搬、他	58	資料運搬費（22,390）、通信費（36,019）
印刷製本費	513	専用コピー機使用料、他	513	展示パネル制作費（178,200）、専用コピー機使用料（130,800）、調査発表関連印刷費（11,000）、報告書印刷製本費（192,500）
旅費交通費	139	打ち合わせ・出張交通費	139	
報酬・委託料	5,223	バレエアーカイブ関連委託費、外部研究員報酬	5,223	研究発表展示関連委託費（91,260）、プロジェクトアドバイザリー委託費（400,575）、報告書原稿委託費（150,000）、資料デジタル化作業関連委託費（1998,876）、アーカイブ関連委託費（2,475,000）、外部研究員謝金（107,777）
（賃借料）	120	ホスティングサービス利用	120	
（出版物費）	236	調査研究参考資料購入	236	
計	6,776		6,776	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	2,895	アルバイト人件費	2,895	時給1150円、年間時間数1,845時間 時給1030円、年間時間数818時間 実人数　2人
教育研究経費支出	0			
計	2,895		2,895	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	137		137	アーカイブ公開用機材（137,390）
図書	0			
計	137		137	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			